

(社) 東京都ボート協会 設立以来の歩み

東京都漕艇協会が公式に発足したのは、昭和 23年 2月 12日のことでした。これ以前にも、大正 9年 6月日本漕艇協会が設立され、実質的には東京の大学が中心となってわが国のボートの活動が展開し、昭和 3年日漕に関東・関西支部が設けられてからは、関東では関東漕艇協会、戦後には関東漕艇連盟の名前で競技が行われました。昭和 21年に国体が誕生し、最初は関東代表が出場しましたが、第 2回からは東京都代表が出場するようになり、昭和 23年新たに東京都漕艇協会が関東漕艇連盟から独立設置され、今日に至っております。

東京都のボート活動を活性化し (社)日本ボート協会の活動を扶け

日本のボート競技発展に尽力する (社)東京都ボート協会

年号(西暦)	漕艇関係特記事項
昭和 20 年(1945)	8 月 太平洋戦争終結、空襲により艇・艇庫の多くを焼失
	11 月 戦後初のレースを向島で開催
21 年	10 月 関東インターカレッジ復活開催(向島)
	11 月 第 1 回国民体育大会漕艇競技開催(滋賀県瀬田川)
22 年	6 月 第 1 回向島レガッタ開催(お花見レガッタ・都民レガッタの前身)
	8 月 第 2 回国体に東京都代表(日本鉱業、学習院中等部)が参加
23 年	2月12日 <u>東京都漕艇協会誕生</u> (関東漕艇連盟総会で承認) 初代会長に山田文雄氏、理事長に東田正信氏が就任 ・日本オアズマン・クラブ設立
24 年	6 月 第 1 回戸田レガッタ開催(戸田)(昭和 26 年から埼玉県漕に移管)
	9 月 全日本選手権競漕大会がスタート(戸田)(戦前から通算第 24 回)
	9 月 第 4 回国体を東京都で開催(漕艇競技は戸田)、全面的に支援
26 年	4 月 第 1 回お花見レガッタ開催(向島・600m)
	7 月 第 1 回読売レガッタ開催(戸田)
	8 月 第 1 回関東インターハイ・レガッタ開催(戸田・1000m)
27 年	11 月 第 1 回関東ジュニアインカレ開催(戸田) (昭和 35 年から日漕主催の全日本ジュニアに移管) ・第 15 回ヘルシンキ・オリンピック大会開催(7 回)

28年	8月	第1回朝日招待レガッタ開催(向島)(東漕・朝日新聞共催)
	8月	第1回全国高等学校漕艇選手権大会(インターハイ)開催(滋賀県瀬田川)
	8月	第1回関東高等学校(新制)新人戦開催(戸田)
29年	8月	イギリス・ケンブリッジ大参加の全日本選手権を全面的に支援
30年(1955)	9月	神奈川県相模湖で開催された第10回国体の運営に協力
31年		・第16回メルボルン・オリンピック大会開催(11月)
32年	10月	第1回相模湖レガッタ開催(神奈川県・相模湖)(神奈川県漕主催)
34年	5月	IOC総会(ミュンヘン)で1964年オリンピック開催地が東京に決定
	8月	イギリス・オックスフォード大参加の全日本選手権を全面的に支援
	9月	第14回国体が東京都で開催(漕艇は埼玉県で開催、運営に協力)
35年(1960)	9月	第15回国体(熊本)漕艇競技で、東京都が初の総合優勝、天皇杯獲得
		・第17回ローマ・オリンピック大会開催(8月)
36年	7月	第1回オックスフォード盾レガッタ開催(戸田)
		・東京オリンピックのボート会場が戸田に決定
38年	9月	戸田コースの改修工事完成、使用規定・航行規則施行 (全長2400m 幅90m 深さ2.5m)
39年	6月	日本漕艇協会が社団法人に組織変更
	10月	第18回東京オリンピック大会開催、競技運営に全面的協力
40年(1965)	10月	戸田漕艇場の管理が埼玉県に移管
43年	10月	第1回スカル・バジテスト開催(東漕主催)
		・都民レガッタのナックルフォア二部制を実施
		・都民レガッタのナックルフォア二部制を実施
		・第19回メキシコ・オリンピック大会開催(10月)
44年	9月	国体に高校男子シングルスカル種目を採用(フィックス種目廃止)
		・お花見レガッタに女子舵手付きフォア、都民レガッタに女子4人漕ぎローボートを採用
45年(1970)	8月	高校総体にシングルスカル種目を採用(女子は56年から採用)
	8月	第1回全日本女子選手権開催(岐阜・川辺)

		(平成5年から全日本選手権に統合)
46年	5月	日漕が国体調整委員会を設置(9ブロック)
47年		・第20回ミュンヘン・オリンピック大会開催(8月)
48年		・都内小学生の乗艇練習ボート教室を開催、底辺拡大に努力 ・国体参加の東京代表クルーに強化費の援助及び技術指導を実施
49年	8月	第1回全日本大学選手権開催
51年		・第21回モントリオール・オリンピック大会開催(7月)
52年		・戸田コース用のコースロープ、ブイを新調し、コース設定を円滑化
53年		・年間優勝クルー又は優秀選手表彰制度を設定
54年	6月	第1回全日本軽量級選手権開催
55年(1980)	7月	関東漕艇連盟設立総会を開催、発足(関東1都6県で構成) ・国体ブロック予選を、関東地区大会(通称ミニ国体)に変更 ・第22回モスクワ・オリンピック大会、JOC決定により不参加
56年	7月	第1回全国中学生選手権大会開催(静岡県佐鳴湖)
	8月	第1回ウォーターフェア・レガッタ開催(水の週間実行委員会主催・東漕後援)
57年	11月	「アジア漕艇連盟(ARF)」設立(於・インド ジャイプール)
58年	12月	第1回女子エイト・レガッタ開催(東漕主管・オープン、62年まで)
59年	8月	中国漕艇選手団参加の全日本選手権大会を全面的に支援 ・第23回ロスアンゼルス・オリンピック大会開催(7月)
61年(1986)	9月	第10回アジア競技大会で、マツダオート東京(2-)が優勝
63年	4月	お花見レガッタに中学生部門のレースを新設 ・第24回ソウル・オリンピック大会開催(9月) ・墨田区の中学生ボート普及計画に全面的に協力、9中学にボート部が新設され 横十間川には区立艇庫が建設された
平成元年	2月	第1回エルゴメーター競技大会開催(日漕主催・関東大会会場は戸田第1小) ・乗艇中の事故防止のため安全対策部を新設

- 2年(1980) 3月 第1回全国高校選抜競漕大会開催(静岡県天竜)
5月 第1回ヘンリーレガッタ・ジャパン開催(当協会主管)(於・隅田川 第3回まで)
- 3年 10月 第4回アジア漕艇選手権大会開催(戸田)
大会運営に協力し、併せて発艇台、距離表示板ほかの用具を整備
・高校強化対策として、ダブルスカル購入校に経費の一部を助成
- 4年
・「強化普及部」を「強化部」と「普及部」に分割、機能強化をはかる
・第25回バルセロナ・オリンピック大会開催(7月)
- 5年
・墨田区中学生、葛飾区社会人のボート教室指導に協力
・都内の漕艇場及び艇庫の造営適地調査を、荒川・中川・多摩川を対象に実施
- 6年 2月26日 社団法人東京都漕艇協会設立総会開催
3月29日 **社団法人東京都漕艇協会** 設立認可・発足
9月 荒川放水路通水70周年記念・第1回「荒川レガッタ」開催
- 7年(1995) 6月 日漕創立75周年を迎える。11月 記念式典開催
6月 NHKTVが全日本選手権決勝レースを全国放送(継続実施中)
- 8年
・第26回アトランタ・オリンピック大会開催、派遣11名中当協会所属選手が7名出場
- 9年 4月 関東漕艇連盟を設立、関係都府県協会の連携を強化
12月 「東漕ニュース」第1号を発行(復刊)
- 10年 2月 創立50周年を迎える
4月 日漕が「(社)日本ボート協会」に名称変更
5月 **「社団法人東京都ボート協会」** に名称変更
8月 創立50周年記念行事を開催
- 12年 6月 第1回旧中川ボート教室を開催
・第27回シドニー・オリンピック大会開催(9月)
(派遣8名中、当協会所属選手が7名所属)
- 13年 7月 江戸川区ボート協会設立総会開催
8月 新造の艇庫が竣工(鉄骨プレハブ造)(江戸川区東砂3-31・所在)
10月 文部科学省の社会体育優良団体表彰を受賞

16 年		<ul style="list-style-type: none"> ・戸田コース本部建物が新築竣工 ・第 28 回アテネ・オリンピック大会開催(8 月) 派遣 4 名中当協会所属選手 1 名が出場
17 年(2005)	8 月 10 月	<p>FISA 世界選手権大会(岐阜県長良川)に当協会登録選手が多数出場</p> <p>第 8 回スカル選手権を開催</p>
18 年		<ul style="list-style-type: none"> ・中学選手権で 1x 2x 種目を新設
20 年		<ul style="list-style-type: none"> ・世界 U23 ボート選手権で LM4-が銀メダル獲得、クルー4 名中 3 名が当協会所属選手(7 月) ・江東区の艇庫を、墨田区に移築し、都立日本橋高校に寄付
22 年(2010)	4 月	「一般社団法人東京都ボート協会」に移行認可・新発足